



ICU 国際基督教大学卒、米国 SIT 大学院に留学・修士課程修了。平成 13 年参議院選挙で初当選、2 期目。文部科学大臣政務官、自民党女性局長、参議院環境委員長等を歴任。「命の重み・家族の絆・国家の尊厳を守る」ことが政治信条。

教育は国民性を創る礎^{いしずえ}

参議院議員 有村 治子

エスカルゴになったカタツムリや食用カエルの唐揚げを見て、「美味しそう」と感じるかどうかは、ひとえに国民的教育と経験に拠る。目の前の現実に対し、それを「どのよう

に認識するか」という感じ方・生き方まで変えてしまうのが教育の深さであり凄みだ。まさに「教育は国民性を創る礎」。国家観なき戦後教育にどっぷりと浸かってきた有権者が選ぶりリーダーは、当然ながら戦後教育の特徴を反映した歴史認識、外交政策、家族政策等を具現化してしまふ。「どんな教育をするか」は即ち、「いかなる価値観のもとで、どんなリーダーを選ぶか」を意味し、これは「どのような国家国民をめざすのか」という本質的なテーマに直結する。

初当選以来十年、私は「百の議論より一つの実践」を行動原則にし、教育問題に取り組む中で、教科書無償制の意義を広める活動をしてきた。現在、小中学生千百万人が使う全ての教科書には、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう」と書かれている。私が文言を考え、全ての教科書会社の賛同を得て実現したこのメッセージは、父母をはじめとする国民の納税によって、児童生徒一人

当たり年間約百万円の公費が投入され、公教育が成り立っているという現実と共に、公共・勤労と納税の義務・世代間互助の精神を子供達に伝えるきっかけとなっている。

日本を誇りに想い慈しむことのできる教科書を、との熱い思いで自らの専門

性を発揮され、育鵬社教科書を執筆・出版頂いた諸先輩のご尽力に感服し、共感している。他方、この貴重な貢献を「戦争賛美の教科書」と一方的に貶める、かの勢力も相変わらず活発で巧妙だ。国の将来を担う子供達の教育・教科書について、右だ、左だ、などとレッテル貼りをして短絡的な応酬をすることは空しいことはない。歴史に向き合い、正々堂々と議論することこそ、国民が求める姿であろう。

イギリスのサッチャー元首相は野党時代、「難解で複雑な諸政策の本質を、いかに分かりやすく多くの国民に伝えるか」に腐心し、それに大半の時間を費やしたと記している。

教科書によって、何を子々孫々に伝え遺すべきなのかを、広く国民に問い、大多数をなす世論が納得して支持する国民的教科書に育てていくことが、教育正常化に努める保守の役割だと任じている。

日本を取り巻く世界情勢を考えると、今後の教科書では、国民が国民自身で国のあり方を決めることのできる〈主権〉の重要性和、民族の生存・平和と繁栄を確実にするための〈安全保障〉の視点を、明確に書き込むことが必要だと考える。

先月私は、教科書採択問題をテーマに勉強会を主催したが、定員の四倍近い参加申込みがあり、震災後の日本人の生き方を真摯に考える層の厚みに、確かな手応えを感じた。教科書を採択する全国の教育委員各位のみならず、私達一人一人の良識と勇氣ある行動が試される夏本番だ。